

第3回 静岡市静岡地区LRT導入検討協議会

- 1 日 時 平成25年5月15日(水) 14時00分～16時00分
- 2 場 所 清水庁舎 3階 313会議室
- 3 出席者 (委員) 川口会長、遠藤委員、小川委員、水島委員、松本委員、
花井委員、笠井委員、大井委員、齋藤委員、
新聞委員(代理:小坂)、仲田委員(代理:伊藤)、勝山委員
(関係者) 松本委員、古屋委員、鈴木委員(代理:宮原)
(事務局) 松浦都市計画部長、小林交通政策担当部長、大滝参与兼
交通政策課長、吉川統括副主幹、竹下主査、鏡味主任技師
欠席者 (関係者) 村松委員
- 5 議 題 LRT導入に向けた施策の検討
- 6 会議内容
(1) 開会
(2) 開会あいさつ
(3) 議題説明
(4) 意見交換
(5) 報告事項
(6) 閉会

○議題説明

(1) LRT導入に向けた施策の検討について

以下の事項を事務局より説明

- ・第2回協議会の指摘事項と対応(案)
- ・「静岡型コンパクトシティ」の実現に向けた公共交通の整備及びまちづくりの推進
- ・静岡市の目指す公共交通ネットワーク
- ・各都心における導入の目的
- ・LRTシステムの選定理由
- ・各ルートの概要について
- ・目指すまちづくり及び課題解決に向けた施策(案)
- ・市民・経済界・交通事業者・市が一体となった連携協力
- ・ルートの施策イメージ

○意見交換

<市民への周知と理解について>

- ・市民の理解を得るためには、L R T 検討に対する情報開示が必要である。
- ・L R T の整備に相応の巨額を要し、かつその運営も赤字では事業の必要性が説明できない。整備効果すなわち社会便益を定量的に示すことはできないか。

<ルートについて>

- ・居住地や商業地の現状をみれば、J R 清水駅の接続は需要の見込める西口とするべきである。
- ・清水橋通過の件は「通せない」のではなく「どうしたら通せるのか」として検討すべき。

<日の出地区の開発について>

- ・清水ルートは、日の出地区の商業開発や観光化を前提としているが、その姿や見通しが示されないなかではL R T の目的や意義を議論するに至らない。

<需要予測について>

- ・現計画の沿線には人口が少ないので、利用者の確保には他地域からの入れ込みを期待することになる。誰が何の目的で利用するのかを見据えないと、ルートも需要喚起も議論できない。
- ・需要予測は、利用者やその移動目的の想定によって複数のパターンがあってよい。

<整備及び運営スキームについて>

- ・L R T 整備には国等の補助が入るので、静岡市の実負担額がどの位になるのかを知りたい。運営についても同様である。
- ・L R T 事業者の形態(公営/民営/第三セクター、上下一体/上下分離等)は具体的に想定しているのか。

<道路交通への影響について>

- ・L R T 導入後の既存道路交通に対する影響度の検討が必要である。